

施策評価シート(平成23年度の振り返り、総括)

作成日 平成 24 年 6 月 4 日

施策	4	障害者福祉の充実	主管課	名称	町民福祉課	関係課	
				課長	青柳 健市		

施策の目的	対象 (誰、何を対象としているのか)	対象指標	単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度見込み	把握方法
	①自分らしく自立し、誇りを持って暮らす。	①障害者	A 障害者数	人	1,407	1,447	1,480	1,530	
B									
C									
D									
意図 (対象がどのような状態になるのか)		成果指標 (意図の達成度を表す指標)	単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度目標	設定の考え方と把握方法
①自分らしく自立し、誇りを持って暮らす。		A 自立支援サービス支給決定者数	人	121	138	144	155		A) 障害の程度に合わせた自立支援サービスを利用することで、支障を取り除いて自分らしく自立できていると考えるため、成果指標とした。 主管課で実数を把握 B) 数値が高まれば、障害者が自分らしく自立し誇りを持って暮らすことができるようになっているといえるため、成果指標とした。本来、障害者本人がどう感じているかを把握するべであると考え が、絶対数が少なく把握が困難なため、町民全体の数値として把握する。 町民アンケートにより把握 ※みなかみ町は障害者が社会参加しやすい環境であると思いませんか。→「そう思う」、「どちらか といえばそう思う」と回答した人の割合
	B 障害者が社会参加しやすい環境だと感じている町民の割合	%	-	-	-	38.7			
	C								
	D								
	E								
	F								

住民と行政との役割分担	1. 住民の役割 (住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	2. 行政の役割 (町がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	<p>&lt;町民&gt;</p> <p>①障害及び障害者への認識と理解に努める。</p> <p>②障害者支援に係る技術(手話、点字、車いすの押し方等)の習得。</p> <p>&lt;障害者&gt;</p> <p>①就労意欲をもつ。</p> <p>②積極的に社会参加する。</p>	<p>1) 町がやるべきこと</p> <p>①障害者の主体的な選択が尊重され、障害者が自分らしく自立して生活していくことが出来る地域社会の確立。</p> <p>②就労など社会参加する機会をつくる。</p> <p>③障害者理解促進について周知する。(障害者支援技術講習会の開催)</p> <p>④障害者の社会参加を困難にしている様々な生活上の障壁(バリア)を取り除く。</p>

1. 施策の成果水準とその背景・要因		
<p>1) 現状の成果水準と時系列比較（現状の水準は？以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は？）</p> <p>① 自立支援サービス支援決定者数は、平成20年度121人、平成21年度138人、平成22年度144人、平成23年度155人と年々増加傾向にある。障害者数も年々増加（約3%）しているが、これを上回る割合で増加している。申請方式になったことから減少傾向になると思われたが、制度内容の充実や制度内容の普及等により申請者が増えてきている。障害者の内、約1割の人が自立支援を受けていることから、平成24年度以降も増加を見込んでいる。</p> <p>② 障害者が社会参加しやすい環境だと感じている町民の割合は、平成23年度38.7%となっている。地区別にみると、月夜野地区46.2%、水上地区26.6%、新治地区37.0%となっている。障害者数が最も多い水上地区で低い割合となっているが、雪等の気象条件によるものや歩道の整備状況などが遅れているからではないかと考えられる。また、月夜野地区には、利根西部福祉作業所（びっころ）があるため、障害者が社会参加しやすいと認識している割合が高いのではないかと考えられる。</p>	<p>2) 他団体との比較（近隣市町村、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は？）</p> <p>① 自立支援サービス支給決定者数（平成23年3月の利用実績／平成23年3月末住民基本台帳人口比）をみると、群馬県9867名（人口比0.49%）、利根沼田圏域では498名（0.55%）、沼田市262名（人口比0.50%）、みなかみ町154名（〃0.7%）となっており、利根沼田圏域内ではみなかみ町は高い水準となっている。</p> <p>※参照「バリアフリーぐんま障害者プラン5」</p> <p>② 障害者のデイサービス専用施設がない。利根沼田では沼田市と昭和村に整備されている。</p> <p>③ 人口1,000人あたりの障害者の人数は、全国で58人（平成23年度障害者白書（H17～H20数値））、みなかみ町59人（平成19年度）であり、障害者の割合は平均的な水準にあると考えられる。</p>	<p>3) 住民の期待水準との比較（住民の期待よりも高い水準なのか 同程度なのか、低いのか、その他の特徴は？）</p> <p>① 障害者デイサービス施設等を町で設置してほしいという声がある。町外施設等でサービスを受けている関係者から、住み慣れた地域で生活するための施設が町にあれば、サービスを受けながら実家で暮らしたいという要望がある。</p> <p>② 就労場所が近くになく、できれば家の近くで働きたい。</p> <p>③ 利根西部福祉作業所（ピッコロ）の定員増を望む声があり、平成19年度に定員15人を20人に増加したため、現在は定員増を望む声は聞かれない。</p> <p>町民アンケートによると、この施策に対する満足度は、満足6.2%、やや満足17.4%、やや不満6.4%、不満4.5%となっている。</p>
2. 施策の成果実績に対するこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括		3. 施策の課題認識と改革改善の方向
<p>① 地域活動支援センター事業（利根西部福祉作業所（びっころ））を通して、障害者の働く場所を確保し作業訓練したことにより、平成21年度までに、他職場へ5人就職させることができたが、その後就職者数は0人である。</p> <p>② 障害程度区分認定事業において、平成23年度中で自立支援法による施設移行が滞りなく完了した。</p> <p>③ 平成21年度から開始した榛名養護学校沼田分校へ送迎する移動支援事業において、平成23年度から台数と人を増やしきめ細かく行うことで利用者の利便性向上と家族の負担軽減につながった。</p>		<p>① この施策は町の裁量が狭い反面で町の費用負担が生じている。平成25年度までに自立支援法が廃止され新たな法律（障害者総合支援法）が制定される予定であることから、今後の動向を注視する必要がある。</p> <p>② 障害者デイサービスセンターを設置し、平成25年度の早期の開設を予定している。運営方針などの検討を平成24年度中に行うこととなっている。</p> <p>③ 障害者手帳等の交付者数は平成19年度1,379人、平成23年度1,530人と、5年間で151人増えている。これは、心身障害によるものではなく、高齢化に伴う身体障害者が増加したものと思われる。今後も団塊の世代が高齢になるため増加傾向が続くと予想されることから、広報等の手段を利用し、制度周知に遺漏のないようにしていく必要がある。</p>